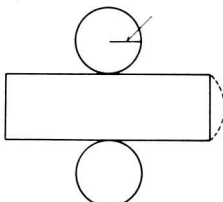


領域	問題番号	出題のねらい	内 容	46年度 正答率	52年度 正答率
④	7(2)	円柱の表面積	右の図はある立体の展開図である。 (2) イニの長さはいくらか。	48.2	/
	(3)		※(3) この立体の表面積はいくらか。		
⑤	1(2)	比の意味	つぎの比をかんたんにしなさい。 $\frac{1}{2} : \frac{3}{5} \rightarrow 3 : 5$	37.4	/
	6(1)	式、グラフの特徴	※ 1m20円の布があります。この布の長さを a m, その代金を b 円として, a と b の関係を表す式を求めなさい。	18.9	47.6
	7(2)	比例, 反比例の理解	つぎの2つの量の関係(あ)~(か)において, 比例するもの, 反比例するもの, 比例も反比例もしないもの(に)を, 記号で答えよ。	33.1	36.9
	(3)		※ (2) 反比例するもの (3) 比例も反比例もしないもの	36.3	/
	9	百分率を求める	※ みつおさんは, 貯金の20%にあたる 480円をおろしました。おろすまえの貯金高を x 円として式をたてよ。(式だけでよい)	14.2	20.3
11	確からしき比べ	※ さいころを投げて, 出る目の数が偶数と奇数の割合を調べた。左の表は偶数の目が出た割合をまとめたものである。さいころを投げる回数を多くすると, 偶数の目が出る割合は, どんな数に近づくか。	15.1	34.8	
計				22問 (27.5%)	10問 (12.5%)



46年度の調査では、50%の正答率を割っていた小問数が22問に対して、今回の調査では10問に少なくなっていることからしても、算数科の力は着実に向上していることを知ることができる。

ただ、この10問のうち8問までが④と⑤の領域に集中していることからして、すでに述べてあるように、この2領域における指導の改善が強く望まれるところである。

46年度の調査で最も低い正答率を示した⑤の9(14.2%)は、今回の調査でも最も低い正答率(20.3%)を示しているように、前回の正答率が40%を割っていた問題で、今回50%をこしたのは12問中ただ1つだけである。ただ、前回20%を割っていた問題が5問あったが、今回はなくなっている。この5問のうち、⑤の6(1)は、18.9%から47.6%と大きく伸びてきている。

前項に示してあるように、今回の調査で50%

の正答率を割っている問題は、どれもが、児童にとっては抵抗のあるものである。それぞれの小問についての考察は、すでに述べてあるものをのぞいて、ここでは、①の1、⑤の6(1)について考察してみる。

①の1

分数の乗法の意味を、面積図を用いて表すことができるかどうかをみる問題であるが、今回の正答率が39.2%と低い。前回の調査が19.4%であることからみると、指導の成果は大きく伸びてきているが、与えられた面積を $1a$ 、つまり全体を1とみることにに対する抵抗が大きい。また、たて軸と横軸の意味の理解、面積と分数概念の結びつきの理解、などが不十分なところが原因と考えられる。

1時間に $\frac{4}{5}a$ たがやすとき、 $\frac{3}{4}$ 時間では何 a になるかを計算 $\frac{4}{5} \times \frac{3}{4} = \frac{3}{5}$ によって求